

発行所
カトリック福江教会
 広報委員会
 五島市末広町 3-6
 ☎ 0959 (72) 3957
 ●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

前田万葉枢機卿様 親任式

主任司祭 **中村 満**

トマス・アキイナス前田万葉大阪大司教は、六月二八日午後四時からローマ聖ペトロ大聖堂で行われた親任式で教皇フランシスコから枢機卿に親任された。親任式はみことばの祭儀の形式で行われ、聖書朗読、教皇の説教、信仰宣言などの後、祭壇前に座した教皇の下に一人ずつ登壇し、枢機卿親任のヴィレツタと指輪と親任書を教皇から直々に贈られた。式では十四名の新枢機卿



が親任されたが、前田大司教は十一番目に呼ばれた。教皇の前に向かう大司教を見て、涙が自然と溢れた。指輪を拝受するその姿は、感動の一言に尽きる光景だった。

親任式終了後、会場をパウロ六世ホールに移し、午後六時から新枢機卿との集いが行われた。ホール前方に適度な間隔を置いて各枢機卿の席が用意されていて、参列者は祝意を伝えるため行列を作り、新枢機卿と親しく面談していた。私も福江教会の主任として、また、浜脇教会の主任としてお祝いの言葉を贈ることができ、感無量であった。集いを終えて遅い夕食を摂り、ホテルへ。感激、感涙の一日だった。

翌日は聖ペトロ・聖パウロの祭日で、九時半から教皇様司式による感謝ミ



前大聖堂オルビエート

サが新枢機卿、新大司教参列の下に聖ペトロ大聖堂前の広場で行われた。世界各国からの巡礼団を始め、数百人の司祭、修道者、祭日のミサへの参加者など何万人かはいる荘厳なミサだった。ミサ後、昼食にピザを食べ、シヨッピングタイム。猛暑のため歩くことをためらい希望の店には行けなかった。午後四時から、親任祝賀のレセプションがローマの日本大使公邸で催され、ローマ在任の司祭、修道者、日本人会の関係者、各国の大使など招待を受けた方々が参加していた。日本食が振舞われ、数名による生演奏と男女二人のカンツォーネも披露され、祝賀の雰囲気大いに盛り上げていた。一時間半ほどで終了し、ホテルへ直行、軽く夕食を摂り、就寝。

食は大聖堂近くのレストランで。オルビエートは白ワインが有名などころ。美味しいのを下さいと注文したが、顔と足元を見られたのか、普通ランクだった。食後は、地下都市の見学と自由時間。大聖堂の正面部分(ファザード)は一見の価値があるモザイクで有名。二度目の訪問であったが、最初の訪問時の感動がよみがえり、さすがに素晴らしいと再度堪能した。夕刻、バスに乗り帰路へ。夕食を摂り就寝。

最終日、クラレチアン宣教会の本部を訪問。チャペルで枢機卿様司式のミサを捧げた。祭壇で枢機卿様の右に立ち、共同司式できたことは最高の喜び、幸せであった。ミサ後、飲み物などの接待を受け、空港へ向けて出発。一路帰国の途へ。

前田枢機卿様は私が高校二年生終了時の春休みに司祭に叙階され、その春から福江教会の助任司祭として赴任され、浜脇の教会を担当して下



聖堂本部宣教会クラレチアン



旧五輪教会 (久賀島)

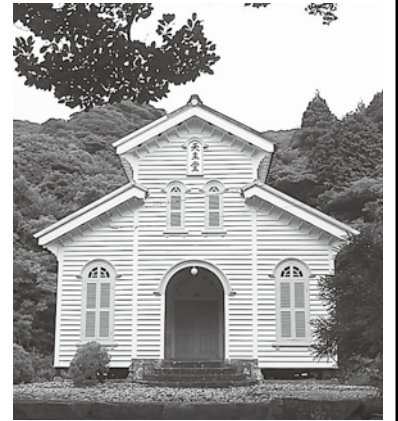
産に登録されたという事は、単純に言うならば世界各國が世界の宝物として関連遺産を

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産が、六月三〇日に中東の巴厘ーンで開催されたユネスコの世界遺産会議において世界文化遺産に登録された。世界文化遺産に登録

主任司祭 中村 満

「世界文化遺産へ」

さった。そして、翌年からは主任司祭として久賀島で四年間働いて下さった。私の記憶では、その間、司祭館の建設、牢屋の窄の殉教者名の石碑など、今日に至るまで残る遺産を造って下さった。宣教司牧に打ち込む若い新司祭の姿は、大神学校に進んだ私を大いに励ましてくれた。これらの事もあって、親任式にはどうしても参加したい、二度とチャンスはないと思い、ローマへ出かけることにした。



江上天主堂 (奈留島)

承認したことになる。世界各国が遺産を真正に評価し、認め、世界の遺産として保存、管理し、次世代に継承すべきだと表明したと言える。

五島市の遺産は江上集落と久賀島の集落があるが、世界遺産に登録されたことの最大の意義は、世界市民権を得たことにあると考えている。日本人で「江上」と「久賀島」を知っている人がどれくらいいるだろうか。誰でも知っているとは言えないだろう。遺産登録の報によって初めて知った人が多かったと思う。日本のみでなく、世界に知られ、その価値やメッセージを公に、そして公式に遺産として発信できるようになったことは何ものにも替え難いと思う。先祖の苦難を思いながら、その生き様を語り継ぎ、世界に私たちの宝物を公に伝えていくことができる時が訪れたのだ。

聖母祭 2018

八月十二日(日)午後五時半より恒例の聖母祭・夜市が福江教会前広場で開催された。今年も、久賀島の殉教祈念聖堂の補修工事費用の支援のためとして行われ、あわせて七月の西日本豪雨災害にて被災された方々のために募金箱も設置された。連日の猛暑の影響か、他地区で行われたお祭りと日付が重なったためか残念ながら昨年より少ない来場者で



あった。それでも、今年は金神父様の本場仕込みのチヂミや山内神父様と子供たちによるバルーンアートや各種ゲーム、さらにマリア病院職員有志による「はしまき」屋台など新しい出店も多く、皆が楽しんでいる様子が印象的であった。

神学生、志願者支援を目的に始まった聖母祭も、近年は災害被災者支援などのチャリティとしての意味合いが強くなってきた。毎年暑い中の準備など楽ではないが、お祭りのスタッフと来場される方々が共に創る、誰かのために「私」をお使い下さい、という支援の輪が今年も出来ました。皆さん来年もどうぞよろしくお願ひします！



下五島地区

小学生黙想会

七月十六日(月)に小学生黙想会が行われました。炎天下の中でしたが、大きな事故もなく実りの多い一日となりました。お世話下さった皆さま、お祈りを下さった皆さまに心より感謝いたします。

浦上村の信徒たちが「旅」と呼んだ、過酷な流刑から今年で一五〇周年を迎えました。節目に合わせて黙想会のテーマを「旅」の心のころーマルマン神父様とペルー神父様について学ぶーとしました。歴史の舞台堂崎の地に集いシスター木口のお話を聴いて、いざ私たちも小さな「旅」へ。堂崎天主堂から浦頭教会まで徒歩巡礼を行いました。昼食からは福江教会へ場所を移し、ゆるしの秘跡と感謝のミサ、その後ごほ



木口シスターのお話の様子

うびのアイスを頂いて有意義な黙想会も幕を閉じました。ミサの中で奉納された子どもたちの感想

文(絵)の一部をご紹介します。

◆「旅の心」を感じて

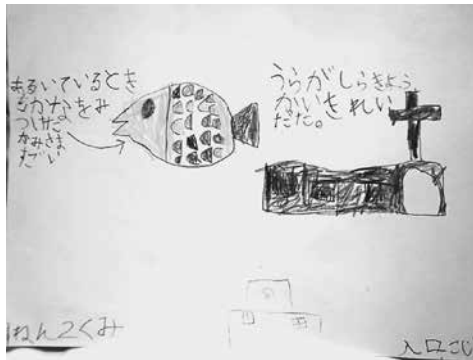
福江教会 5年 真鳥 陽菜子
今回の黙想会のテーマは「旅」でした。堂崎教会を出発する前、木口シスターの話を聞きました。「マルマン神父様」と「ペルー神父様」と言う名前は聞いたことはあつたけど何をしたかはくわしく知りませんでした。2人は養育院や教会をつくり、シスターの教育をした人でした。今回は堂崎教会から浦頭教会までのルートでした。私もきつかったけど、マルマン神父様やペルー神父様がフランスから日本にくる方がきつかったと思います。黙想会を通して、マルマン神父様やペルー神父様のことを知って「旅の心」をほんの少しだけ学べたと思います。

◆感想

ふくえ教会 3年 真鳥 咲衣子

今日は、どうざき教会から、うら頭教会まで、すこしの「たび」をしました。さいしょ、どうざき教会でマルマン神父と、ペルー神父のお話を聞きました。マルマン神父様は教会をつくつたり、たくさんのお話をしてくださいました。ペルー神父様もマルマン神父様のしたことのまねをしてたくさんのお話をしてくださいました。わたしも、そんなことができたかなと思います。どうざき

教会から、うら頭教会まで歩くのはとってもとっても大へんでした。だけど、お昼ごはんや、すいかでつかれがふきとびました。わたしは、こ



○1年 いりぐち こじろう
あるいているときさかなをみつけた。うらがしらかきょうかいきれいだつた。

のもくそうかいでマルマン神父様やペルー神父様のことをほんの少しだけ知ったのかなあと思いました。来年は、どんなことをするのかなあ。



○1年 あらいかわ かくのしん
うみわ(は)きれいでした。かみさまありがとう。



○1年 とむら はつね
わたしはうみをみてすごいとおもいました。うみはいろがかは(わ)るんです。



○2年 さかい そうすけ
このレンガはどうやってもってきたんだらう。なんで海や山の近くに教会をたてたんだらう。

山内神父様霊名のお祝い



六月二十四日(日)一番ミサ後に、聖パウロ山内啓介神父様の霊名のお祝いが行われた。初めに子供代表として、入口君よりお祝いの言葉が送られた。その後、信徒代表より花束と霊的花束が贈られた。山内神父様は「聖パウロの様にとはいかないかもしれませんが、福江教会のために頑張っていきたい。」と述べられた。

福江教会に赴任してまだ数ヶ月で、主に浜脇教会を担当されている事もあり、福江教会で司式されるミサは多くはありませんが、説教が大変聞きやすく、小道具を用いたり、信徒の興味を引く語り口で、既に山内神父様の説教のファンになっている方もいるかと思えます。これから、説教はもとより子供達への信仰教育など、若さを生かして様々な事に取り組んでいただく事を期待してきます！

2018(平成30)年度カトリック福江小教区評議会活動計画

(前号の続き)

年	年	行	事	名	担	当
31年	1月1日	神の母聖マリア(祭日)				
	1月6日	クリスマス馬小屋、イルミネーション撤去				
	1月8日	小教区評議会役員会				本部
	1月13日	小教区評議会定例会議				本部
	1月20日	下五島地区合同堅信式				本部
	1月29日	教区司祭団マラソン大会				下五島地区評議会
	2月	「こころ219号」発行				広報委員会
	2月	高校生総会				下五島地区評議会
	3月5日	小教区評議会役員会				本部
	3月10日	小教区評議会定例会議				本部
	3月17日	聖ヨセフ金神父様霊名お祝い				小教区評議会
	3月	高校生「旅立ちの集い」				青少年委員会

※各委員会等の開催については、省略しています。

福祉委員会より

福祉委員会では、毎月第三日曜日の二番ミサにおいて、送迎ボランティアを行っています。身体が不自由でミサに行くことが出来ない方は、是非送迎ボランティアをご利用下さい。お知り合いで利用したい方がおられたら、神父様に連絡をお願いします。片道の利用も可能との事です。まずは、ご相談を！

また、ボランティアにて送迎の手伝いをして下さる方も募集しています。万一の際も、ボランティア保険などの制度がありますので安心です。神父様か、福祉委員まで一声おかけください！

編集後記

前号からの発行の間に、大きなニュースがありました。長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録と前田万葉枢機卿叙階です。この二つは、神様の計らいなのか、つながりを感じています。

前田枢機卿様は、上五島の仲知産まれの五島出身で潜伏キリシタンの子孫であることが、考え深いものがあります。そして、前田枢機卿様は、三十代の頃に、久賀の浜脇教会に主任としておられました。その頃、私も浜脇教会に所属していて、神父様と信者としての関わりだけでなく、漁

《寄付・香典返し》御礼

○野原 絹子様
故ペトロ野原勝義様
○竹山 智広様
故マリア竹山カヲル様
右記の方から、寄付及び香典返しとしてご芳志を賜りました。
ご報告申し上げますと共に、故人の永遠の安息を心からお祈り申し上げます。

師として、飲み仲間として、いろいろな思い出が多くあります。そんな神父様が枢機卿に叙階されたことは、司教叙階よりもはるかに、こんな自分に何かを語りかけているのではないかと、不信仰な生活をしている自分を見つめ直す機会になっています。

仕事でも、教会を案内することが増えているなか、カトリック以外の人にも自分の信仰について、自信を持って説明出来ない自分があることも痛感しています。この機会に、編集後記を書かせて頂いた事も、何か神様の計らいなのではないでしょうか。身近に感じていた、五輪教会、前田神父様が世界に闊わって行く今、もう一度自分を見つめ直せたら…。

まだまだ、暑い日が続きますが、皆様も体に気を付けて、信仰生活を過ごして下さい。

(N)